



イケン先生の『恐縮ですが…一言コラム』

第 508 回 伝説の「クラーケン」を見た！

2013.1.20

中世時代より、ノルウェー近海、アイスランド沖などに出没しては船を沈めると言われた超巨大な伝説上の生物「クラーケン」は、**UMA**(未確認動物)として語られている存在の中でも、郡を抜く大きさを誇る。クラーケンに遭遇した船はまず確実に生還できないとされたため、船出したまま二度と帰らなかった船の多くは、クラーケンに遭遇してしまったとされた。

そのクラーケンの正体は？ たぶん(?)「ダイオウイカ」だと言われてきた。

ダイオウイカはイカやタコの仲間では世界最大級で、最も大きいものは、18メートルもあるが、深海に生息するため生態は殆ど分かっておらず、研究者の間では「海に残された最後のミステリー」と言われていた。つまり、深海で生きた姿を見た者は、誰もいなかった。

ところが、2013年1月6日、日本国立科学博物館の窪寺恒己博士(動物第三研究室長)らが小笠原諸島父島の深海で、世界で初めてダイオウイカの動画の撮影に成功したと発表した。

その様子が、国際共同制作として NHK と米ディスカバリーチャンネルが作製、『NHK スペシャル』(2013年1月13日)として NHK 総合テレビで放映された。一週間前の話である。



その概要を…NHK のホームページより、ご紹介する。

…地球の海・最後のミステリーといわれる幻の超巨大イカの撮影に、NHK と国立科学博物館などの国際チームが挑戦。世界遺産の小笠原諸島を舞台に、科学者やエンジニアなど11カ国から50人のスタッフが集結した。

透明ドーム型で340度の視界をもつ最新鋭の潜水艇2隻に、NHKが開発した深海用超高感度カメラを搭載、水深1000mの深海に潜航する。目指すのは発光生物や新種の生物に満ちた、200mから1000mのトワイライトゾーン(薄光層)と呼ばれる深海の秘境だ。ダイオウイカを誘き出すため、科学者たちは大胆な作戦の数々を展開する。オトリ作戦、発光生物の光でおびき出す作戦、異性を引きつける化学物質・フェロモン作戦。なかでも、ダイオウイカ最大のライバル・マッコウクジラにハイテク小型カメラを装着し撮影する試みは圧巻だ。10年の歳月をかけ地道に調査・準備を進めた末、ついに奇跡を呼び起こす。

人類が初めて遭遇したその姿は、黄金にまばゆいばかりに輝いていた！…と結んでいる。

(NHK スペシャル HP より <http://www.nhk.or.jp/special/detail/2013/0113/index.html>)

動画の撮影に成功した途端、クラーケン は UMA ではなくなった。伝説的ロマンをサイエンスが超えた瞬間でもあった。調査・準備は10年かけて行われ、潜行回数は100回、潜航時間400時間に及んだという。未知への解明にける科学者達の執念は、見事に実ったと言って良いだろう。窪寺恒己博士の輝いた顔が、いつまでも忘れられない残像となった。

久しぶりに、テレビならではの、いい番組に接し、思わずコラムを書いてしまった。